

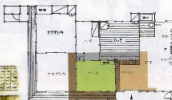
昔は今より何倍も広い竹林があったの。このあたりでは「竹山」と呼んでいたのよ。



春に生えるタケノコは、昔からたいせつな食料でした。成長した竹は、かごやざるなどの道具を作ったり、家をつくる材料に使いました。

地中に穴をほって、地下水
をくみ上げる井戸水は、水
温が一年中ほぼかわらない
ため、夏は冷たくて気持ち
いいし、冬はあたたかく感
じます。

ここは明治20年ごろに建てた昔の主屋。一部を残して離れにしたの。昔はここでカイコをたくさん飼っていたのよ。



昔の世田谷の農家では、多くの家でカイコが飼われていました。カイコを育てる時には蚕を上げて、家中がカイコ部屋として使われ、家族は寒いところにいるとわていました。



歳は、大切なものを保存するために
つくられた建物で、壁や扉などがと
ても厚く、火事や台風などにも負け
ないじょうぶなつくりになっていま
す。家の周りにともなりました。

市民緑地は、都市に残された民有地のみどりを保全し、地域に憩いの場を提供することを目的に、所有者の方と当財団が契約を結んで管理公開しています。これらのお宅は、広い敷地のなかに、主家や離れ、納屋、蔵、畑、そしてケヤキやモウソウチンなどの屋敷林が配されたに家で、その一部が市民緑地として開放されています。

住所：世田谷区北烏山9-1-38（入場無料）
開園時間：9:00～17:00（11月～3月は16時まで）
休園日：年末年始（12月29日～1月3日）

北鳥山九丁目屋敷林市民緑地は、300年以上つづく農家のふんいきが今も残っている場所です。樹齢150年のケヤキの大木や竹林、サクラ、ウメ、カキなどが植えられた庭。今ではめずらしい蔵や井戸のある敷地をめぐりながら、昔のくらしを感じてみましょう。



この家で長年くらしてきた下山さん。「かげってがとでもはやかったのよ」という大変お元気なおばあちゃん。回数誌と共のくらを案内してくれました。



昔はもみ(お米)をむしろにひろげて干したり、農
作業をするための場所だったのよ。農業の機械化が
すすんだ昭和30年ごろに、今のようなかんしょう
用の植木を植えて花などを楽しむ庭にしたの。

ウメ、ユズ、カキ、かれてしまったけど
クリ、それにお茶の木も植えたのよ。



クリ
(今はお)



昔の農家は、畑や家のまわり
に実のなる木を植えて、これら
の実を保存食などにして冬のき
せつにのみました。

大木になるケヤキは、門のかわりとして農家の入り口
 によく植えられました。また昔の家の柱はほとんどが
 杉でしたが、家の中心にある一番大事な大黒柱には、
 材の強いケヤキが使われました。



大きいでしょ！



普通の白菜 下山千両白菜

江戸時代から代々農家をしていた下山家。昭和のはじめに先代の下山萬雄さんが品種改良をして作ったのが下山千歳白梨です。雨風に強く、ふつうの白梨の3倍もの大きさがあったため、戦後の食べものが少なかったころにはとてもよろこばれました。今も畑で作られていて、学校給食にも利用されています。

昭和のはじめころまでは、毎年に300個もの白菜をついで、牛に引かせて築地にはこびました。白菜を出荷する冬の時期には、夜おそくに出発し、朝築地について白菜をおろし、お昼にもどってまた次の日の準備をするという、たいへん毎日をおくっていました。